

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

調査実施期日

令和5年4月18日（火）

※中学校英語「話すこと」に関する調査は、4月18日（火）～5月26日（金）の間で実施

対象及び教科

小学校6学年全児童 国語、算数

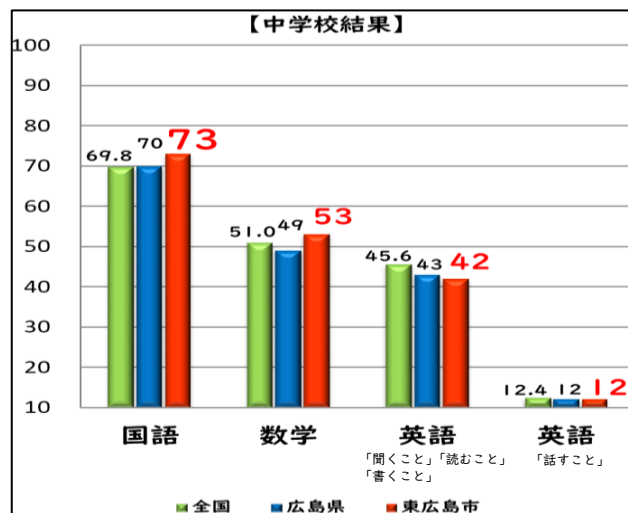
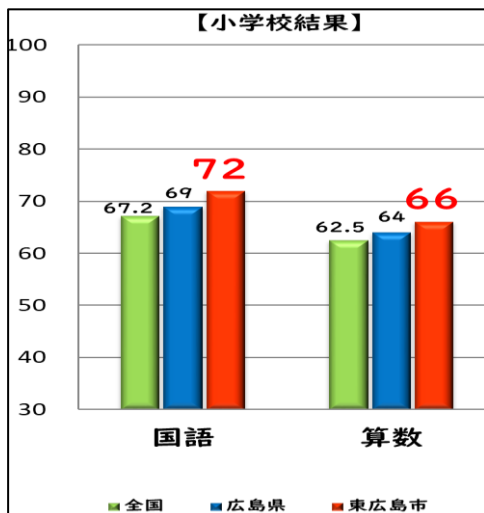
中学校3年生全生徒 国語、数学、英語

教科に関する調査の結果（平均正答率）

校種	教科	東広島市	全国（公立）	広島県（公立）
小学校	国語	72	67.2	69
	算数	66	62.5	64
中学校	国語	73	69.8	70
	数学	53	51.0	49
	英語 「聞くこと」「読むこと」 「書くこと」	42	45.6	43
	英語「話すこと」	12	12.4	12

○小学校は、国語及び算数において、平均正答率が全国、広島県を上回っている。

○中学校は、国語及び数学において、平均正答率が全国、広島県を上回っている。英語においては、「話すこと」は、平均正答率が全国、広島県と同程度である。英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、平均正答率が全国、広島県を下回っている。



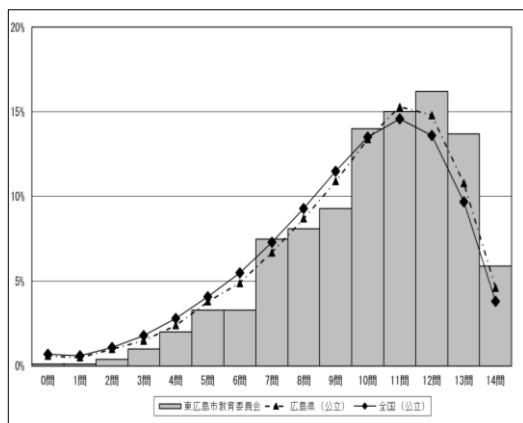
教科に関する調査結果

1 小学校 国語

結果の概要

国語については、平均正答率が72%で、全ての内容において全国平均、広島県平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<内容別平均正答率>

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国	広島県
全体	72	67.2	69
言葉の特徴や使い方に関する事項	75.1	71.2	72.6
情報の扱い方に関する事項	66.5	63.4	63.9
A 話すこと・聞くこと	79.0	72.6	75.1
B 書くこと	33.6	26.7	29.0
C 読むこと	76.7	71.2	73.3

正答率下位2問

- I 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題
(設問①二) 33.6% (全国26.7% 県29.0%)
- II 漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題
※「意外」を漢字で書く問題
(設問①三) 52.4% (全国52.8% 県53.3%)

授業改善のための方策

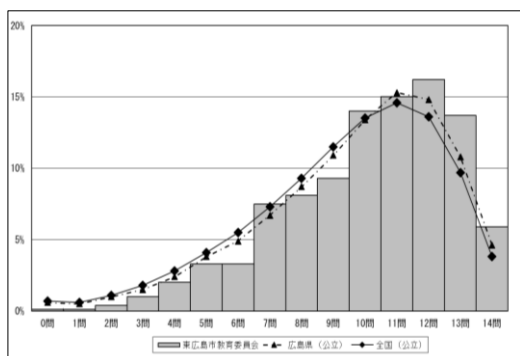
- 情報と情報との関係を捉えて整理し、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する言語活動を設定する。その際、文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり書き直したりできるように指導する。また、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示したり、複数の文章例を比べさせたりすると効果的である。
- 漢字を書くことについては、文や文章の中で使うように指導すること、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くように指導する。

2 小学校 算数

結果の概要

算数については、平均正答率が66%で、全ての領域において全国平均、広島県平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<領域別平均正答率>

学習指導要領の領域	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国	広島県
全体	66	62.5	64
A 数と計算	70.2	67.3	68.1
B 図形	50.8	48.2	49.3
C 変化と関係	72.9	70.9	71.4
D データの活用	71.3	65.5	67.7

正答率下位2問

I 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

(設問②(4)) 21.1% (全国20.8% 県20.5%)

②正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題

(設問②(3)) 27.0% (全国24.9% 県25.1%)

授業改善のための方策

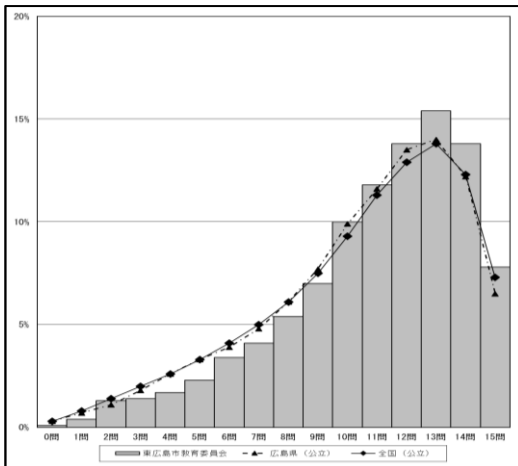
- 問題の答えを出すだけでなく、答えを導き出した考え方をペアやグループ、全体で交流する活動を重視する。児童が数学的な見方・考え方を働かせて、問題を自律的、協働的に解決させることで、数や図形の意味や性質の理解に繋げる。
- 図形領域の学習の際は、積極的に具体物の操作を学習活動に取り入れる。切ったり、折ったりする活動で、角の大きさや辺の長さがどのように変化するのか、操作を通して図形に対する感覚と確かな概念を形成させる。

3 中学校 国語

結果の概要

国語については、平均正答率が73%で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は全国平均より低く、他の内容は広島県平均、全国平均よりも高い。

<正答率分布グラフ>



<内容別平均正答率>

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国	広島県
全体	73	69.8	70
言葉の特徴や使い方に関する事項	66.6	67.5	65.5
情報の扱い方に関する事項	67.1	63.4	64.0
我が国の言語文化に関する事項	77.8	74.7	75.1
A 話すこと・聞くこと	85.9	82.2	83.4
B 書くこと	65.1	63.2	63.2
C 読むこと	68.1	63.7	64.9

正答率下位2問

I 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題

※「押し量る」を漢字で書く問題

(設問③二) 42.7% (全国43.9% 県40.1%)

II 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題

(設問③一) 53.9% (全国54.3% 県52.4%)

授業改善のための方策

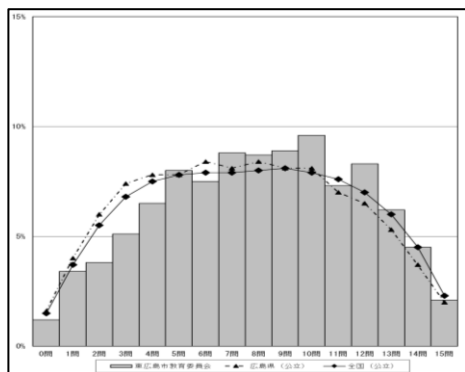
- 国語科の時間に限らず、他教科や日常の中で書く活動を取り入れ、文脈に即して漢字を読んだり書いたりする機会を増やす。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けたり、1人1台端末を活用し文字を入力する際も、漢字がもつ意味に留意し、適切に選択させたりするなど、漢字を正しく用いる意識をもたせることが大切である。
- 読み手の立場に立ち、伝えたいことを十分に伝えることができているかという視点で、叙述の仕方等を確認しながら、文章を整えるという機会を繰り返し設定する。また、推敲する前後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習を行う。

4 中学校 数学

結果の概要

算数については、平均正答率が53%で、全ての領域において全国平均、広島県平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<領域別平均正答率>

学習指導要領の領域	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国	広島県
全体	53	51.0	49
A 数と計算	65.8	63.0	61.4
B 図形	34.0	33.2	31.1
C 変化と関係	55.4	51.2	50.4
D データの活用	49.4	48.5	46.6

正答率下位2問

- I 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題
(設問2) 29.3% (全国30.4% 県27.1%)
- II ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題
(設問9(1)) 32.5% (全国32.1% 県30.5%)

授業改善のための方策

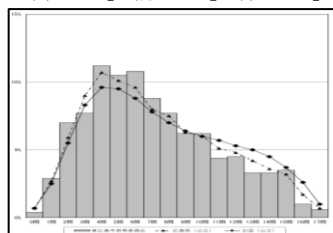
- 身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解することができるよう指導する。例えば、カメラを固定する「三脚」を取り上げ、「三脚が、安定して立つことができるのはどうしてか」や、「下敷きを指先の上に乗せて支えるとき、2本の指より3本の指の方が簡単に支えることができるのはどうしてか。」といった身の回りにある事象から問題を設定し、その理由を考察する活動を設定する。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明した際、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現する学習活動を設定する。

結果の概要

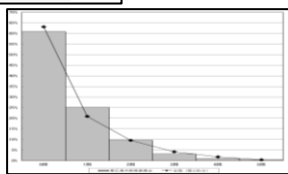
英語については、平均正答率が42%で、全ての領域において全国平均、広島県平均より低い。

<正答率分布グラフ>

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」



「話すこと」



<領域別平均正答率>

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国	広島県
全体 (「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のみ)	42	45.6	43
聞くこと	53.9	58.4	55.1
読むこと	48.9	51.2	50.1
話すこと [やり取り]	13.6	14.5	14.3
話すこと [発表]	5.3	4.2	3.9
書くこと	19.4	23.4	20.3

正答率下位2問

I 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる問題

(設問②) 5.3% (全国4.2% 県3.9%)

II 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題

(設問⑩) 5.4% (全国7.4% 県6.1%)

授業改善のための方策

- 日頃の授業から聞いたり読んだりしたことを基に生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会を設定することが大切であるため、話されたり書かれたりした英文について、内容を確認するだけでなく、その内容と関連させて生徒自身のことを尋ねたり、内容に対する生徒の考えやその理由を尋ねたりすることを継続的に指導する。
- 書く内容を目的に応じて選んだり、どういう構成がよいか判断したり、相手や目的によって表現を工夫したりすることが大切であるため、書き表したものをペアやグループで読み合い、言語面での気付きを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなど、それぞれの言語活動を関連付けた段階的な指導を行う。